

和牛繁殖農家における子牛の飼養管理、疾病発生及び
出荷成績の比較分析：京都府丹後家保 岩田幸義、田
中義信

子牛の死産事故原因は新生子異常、消化器病、循環器病、呼吸器病と多い。循環器病以外は分娩前後の管理で一部予防可能。農家毎の管理方法の差が疾病発生や出荷成績に及ぼす影響について調査。地域の繁殖雌牛10頭以上の5農家(A～E)を対象に分娩前後の飼養管理、子牛の診療履歴、分娩事故率、せり市成績を比較した。母子の分娩房飼養期間はA,B農家で3か月、C,D農家で1か月あり、E農家は早期離乳後完全分離で飼育。分娩事故はC農家が他4農家の5倍以上多い。平均診療日数はB,C農家が10日前後と多く、A,D,E農家は3日以下と少ない。せり市平均価格は診療回数最小のA農家で一番高く、診療多いが管理手厚いB農家が次いで高い。分娩前後に個別飼養し、母子の管理が手厚い農家で母牛の状態が良く、子牛のストレスも少なくなると予想。子牛の観察も多く、早期発見早期治療を行うことで重篤化せず、出荷成績への影響が少ないと推察。今後も調査を行い、分娩前後の適正な飼養管理指導に努め、地域の和牛繁殖農家の生産性向上を目指す。